かくてマレーは英國にとつてはドル工廠となり、米國にとつては戰時經濟の生命線となつた。米國でもこれに備へて英國と棉花ゴム交換協定を結び、あるひはゴム貯藏會社、金屬貯藏會社等を設けて高値を構はず買漁つたり、あるひは民間の使用制限を強化したりなどしてひたすら軍需充足に努めてゐるが、最近情報によるとゴムの國内貯藏は約六十一萬五千瓲（内政府所有廿一萬五千瓲）過去の平均から見ると一ヶ月消費約七萬五千瓲だから僅か八ヶ月分に足らない。錫また然りである。これでは昭和十七年度五百九十億ドルといふ超尨大な軍事豫算も結局空念佛にすぎなくなる。それで狼狽ててボリヴィヤの錫やアマゾンの自生ゴムを持出したりしてゐるがいづれも量的質的に問題にならない。またリベリヤにゴムを栽培したりヴェネズェラの山中オリノコ河岸でゴムの自然林を發見したなどと騒いでゐるが、前者はファイアストーン一社の需要にも足らず、後者はかゝる山奥からいかにして積出すか全く方途がない。まことにマレーの喪失はその波及するところ絶大なものがあり英米の苦慮は察するに餘りがある。

なほ米國の重要原料需給狀態について昭和十二——十四年の平均を見ると左の通りである。

（單位英噸）

| | 消費 | 生産 | 自給率 |
|---|---|---|---|
| 錫 | 六五、九三三 | 一〇五 | 〇・二% |
| 生ゴム | 五二四、二一〇 | 〇 | 〇% |
| 精ゴム | 一四七、〇六二 | 一五九、八二八 | 一〇八・七% |



輸入先の主なるもの左の如し。

錫　マレーより七四%、蘭印より六%

生ゴム　マレーより五九%、蘭印より二七%、セーロンより六%、佛印より五%

またフェルヂナンド・フリードの「世界貿易の將來」によれば英國の自給程度は左の通りである。

ゴム　マレーより六六%

錫　マレーより八%、西阿より二一%

## 五、輸血路を失ふ重慶政權

マレーの今後について語る時、さらに忘るべからざるは華僑の存在と重慶政權の將來であ

る。マレーに對する華僑の進出は十五世紀に始まつたと言はれるが、今日の盛況を見るに至つたのはやはりゴム、錫など近代產業の開發以後である。昭和十四年の調べによると支那人人口は二百三十萬人に上り、マレー總人口の四割二分を占めてゐる。從事する職業はあらゆる部門に亘つてゐるが、最も勢力を占めてゐるのは商業部門で、華僑投資九億九千萬圓中六割が商業投資、三割がゴム、錫に對する投資である。しかし華僑資本の側から見れば錫投資は比較的少いとはいへ、マレー錫鑛山全體の投資額から見れば五割を占め世界の錫の一八%は華僑が支配してゐるのである。ゴムも同樣で、ことにゴムの取扱ひと加工とは華僑、就中閩僑と言はれる福建華僑が獨占してゐる。マレー最大のゴム製品工場は福建華僑の陳嘉庚橡皮公司で堂々たる近代工場である。

かくの如くマレー經濟に拔くべからざる勢力を張つた華僑は從來その力を傾けて抗日重慶政權に奉仕してきたのである。窮迫せる重慶の財政にとつて華僑の獻金が輸血にひとしい重要な救ひの手であつたことは今更述べるまでもないが、その華僑送金の本據こそマレーであつたのだ。すなはち中國救濟資金委員會聯合會の事務所はシンガポールにあつて、前記の陳嘉庚が會



長となつて全世界の華僑を統一し、せつせと稼いだ金を集めては蔣介石に捧げてきたのである。重慶の發表によると昭和十二年七月から十五年十月に至る間に重慶に到達した華僑の獻金は實に二億九千四百萬元に上つてゐる。そのうちシンガポールは一億二千五百萬元で第一位を占めてゐた。かくの如く忠勤を勵んできた陳嘉庚も一度重慶の紊亂せる內情を見るにおよんで愛想をつかし第一線から引退する旨を宣言して重慶を驚倒させたことは周知の通りである。重慶ではその後陳に代り、胡文虎（シンガポール中華總商會理事、藥房經營、星州日報の投資者）を立てて虛勢を張つてきたが、いまや抗日華僑の本據が覆滅され送金の源泉を失ふに至つては貧乏世帶の苦しさは火を見るよりも明かで、たとひ米英が巨額の借款を與へても物資輸送路の梗塞によつて實際は何の役にも立たず、彼此相俟つて重慶政權の命脈はいよ〳〵最後の段階に達してゐるやうである。

## 六、新生マレーの躍進

マレーがわが軍政下に置かれたことは以上のやうにABC三國に致命的打擊を與へるもので

ある。七つの海に君臨した大英帝國は最も重要な支柱を失ふことにより崩壞の一歩を踏出し民主主義國の兵器廠と名乘つて世界制覇の野望を抱いた米國は目算外れて原料獲得難と尨大豫算の矛盾のため混亂に陷り辛うじて殘喘を保つてきた重慶も亦榮養補給の途全く絶えて徒らに野垂死しようとしてゐる。敵の巨魁ずでにかくの如し、殘るDE以下の群小諸國の運命は自ら明かであらう。

これに反し、西歐人搾取の手から逃れ、東洋本來の姿に還つたマレーの前途はいよ〳〵輝かしいものがある。前記のゴム、錫はもとより、從前から日本が經營してきた鐵、日本が開發に着手しかゝつてゐたボーキサイトなどの重要鑛物資源は卓越せる日本的技術によつて一層寶庫の眞面目を發揮し、東洋自身の幸福のために開發利用され、シンガポール港も亦名を昭南島と改めるとともに壓制的支配の根據地たるをやめて共榮貿易の眞の調整中心地となり、大東亞共榮圈の最も重要な一環とならうとしてゐる。マレーには新しい世紀が始まらうとしてゐるのである。



# ビルマ編

# ビルマ篇

## 一、奪はれた自由の回復

英帝國の膝下に六十年、いまビルマは更生の曉鐘に胸を躍らせてゐる。大東亞戰の進展でビルマ人のビルマ建設を叫ぶドバマ運動はいよ〳〵最後の段階に達したのだ。

ビルマの存在が世界の關心を集めるやうになつたのはこゝ數年前のことで、昭和十二年ビルマが印度の羈絆を脱し英帝國の植轄植民地として政治的地位を確保したのと、更に支那事變の發展に伴ひ南支沿岸が封鎖され所謂ビルマ・ルートの重要性が深く認識され始めてからのことに屬する。それまでビルマは永い間印度の一州として印度政廳の決議を實行する義務を負はされてきた。

ビルマが英帝國主義の武力の前に屈服しその屬領となつたのは明治十八年のことであり、間もなく印度に併合されたがその以前はともかく獨立王國の本質を失はず花やかな文化を誇つた

ものである。小乘佛教の基礎が築かれたのはパガン王朝の頃で、その壯麗な佛塔はいまもマンダレーを始め各地に旅する人々の心を慰める。獨立王朝として最後を飾つたコンボウング王朝は遠く雲南、タイ、モニプール、アッサムを含んでゐたといはれ、このやうに曾つてビルマは獨立の存在を保つてゐた。

ビルマを英國が領有以後、間もなくスエズ運河が開通した。このことはビルマ經濟を根本的に變革させることとなつた。それは先づビルマ米をはじめ各種資源を國際商品の列に急速に加へていつた。かくてビルマの米作地は上ビルマから下ビルマに移り、土地開拓に伴つて印度移民の數は急激に增加し、印度資本の流入がみられ、英印資本の前にビルマ土着民族は手も足も揉ぎとられる搾取の端緒がひらかれたのである。

昭和十六年の國勢調査では十年間にビルマの人口は二百萬を增加し千六百八十萬を超えた。このうち印度人は二百萬近くといはれてゐる。支那人は二十萬餘、ヨーロッパ人は約三萬に過ぎず、他は土着民族であるが、その大部分の八割までが農民として惠まれない生活を送つてゐる。ビルマの隅々まで商業部面は殆ど印度人あるひは支那人の手に抑へられ、ビルマ農民で支



那人の營む質屋の厄介にならぬものは一人もないといはれるぐらゐで、石油、鑛山、林產は英本國人に掌握され一般工業、貿易も中小の大多數は印度人經營である。さらにまた勞働者すらも印度人が過半數を占めてゐる狀態だ。ビルマ土着民族の搾取による窮乏ぶりは實に年々三億ルービーに達する巨額の輸出超過をみながら生活に喘ぐ農民の實情を眺めることによつて理解出來る。

ビルマ人の近い過去、そして現實は全く去勢された存在である。いまや赫々たる大東亞戰爭の戰果のうちから失はれた獨立の奪回が實現をみようとしてゐるが、しかしそこには幾多の難關のあることは認めなければならない。ビルマ人自體の怠惰な性質を棄て去ること、ビルマの社會組織に根强く結びついた外的勢力の拂拭あるひは調整など、東亞の安定勢力たる日本の指導に待つ點は少くないのだ。

## 二、隱然たる印度勢力

英國はビルマを征服すると間もなく印度の一州に併呑したがビルマとイギリスの接觸はすで

にそれより二百餘年前に始まつてゐる。その先驅をなしたものは貿易商人であるが、これを支持したものは例の東印度會社であつた。英人貿易中心地はマルタバン灣やラングーン附近に開けそれから百餘年後には商業を通じて英緬の國交は密接な關係に置かれるやうになつた。先づ野望にもえる英人は豐富な鑛物資源に眼をつけたのである。この平和的な商業進出策はやがて英帝國主義の野心を芽生えさせた。それは組織的な軍國主義の支援と相俟つて漸次ビルマ併呑に向はしめ、皇紀二四八四年の第一次英緬戰爭、次いで二五一二年の第二次戰、二五四五年の第三次戰で全くビルマは屈服した。

英國の實際的なビルマ統治は第二次英緬戰後二五二二年に英國政府の任命した政務長官によつて始まつてゐる。この統治は完全併合後も繼續され二五五七年まで續いた。次いで大正十二年に正式に印度の一州となるまでは印度總督の配下にある准知事がビルマの行政權を握つてゐた。

ビルマが完全に英國に併合されてから間もなく印度人の進出が目立つてきた。英國は印度人を商館員や軍人、巡査などに利用しビルマの國民生活を左右しはじめたのである。そして印度



人は漸次英國商人と相並んでビルマの商業活動をも牛耳るやうになつた。英商人も印度商人との取引を實際好んだのであつて、スエズ運河の開通はビルマ米の國際市場性をたかめ、これはひいて土地開發を促進した。同時にマドラスに本據を置くチェッチャーと呼ばれる印度人高利貸が土地金融を目指して流れ込みビルマ農民の膏血を絞る情勢となつた。

現在ビルマにとつて印度および印度人の地位はビルマ人の國民生活を支配する重要な要素であるが、二百萬に近いといはれる印度人のうち三分の一は勞働者であり、他はそれ〴〵貿易業一般商業に從事し、また官廳および凡ての交通機關に勤務し郵便配達人さへ印度人がやつてゐる。一千餘に上る全ビルマの工場の勞働者中實に印度人は七五%を占め殊にラングーンでは未熟練勞働者の九五%、熟練勞働者の七〇%を占めてゐるといふ有樣だ。ビルマ人は主として石油勞働者であるが、印度の勞働階級にくらべ著しく生活程度も素質も低く、ラングーンでビルマ人が就職出來るのは僧侶を除いては河川運航會社ぐらゐのものであるといはれ、たゞビルマ人は上ビルマにおいては自動軍運輸業、家内工業、印刷業などに僅かにインテリ的な存在を示してゐるに過ぎない。つまりビルマ民族の大多數はどん底生活の農民といふわけだ。

チェッチャーの活動はその組織的な細胞網を以て一分の隙もない。かれらは稲作擴張時代にビルマ農民にどし〳〵資金を貸付け高利を貪り遂に抵當として土地を沒收するに至つた。この土地沒收を刺戟したものは昭和五年の米價の崩落であるが、かつてその前年統計によるとチェッチャーの土地への融資額は五億ルーピーを超えたといはれ實に全ビルマ融資額七億五千萬ルーピーの三分の二を占めたのであつた。かくて昭和三年に七二・一%を示してゐた下ビルマの自作農地は昭和五年に五四・二%に減少し、上ビルマでは九〇%から八六・三%に低下し、その後も所謂不在地主の增加が目立ち、こゝに土地關係を繞つて印度人とビルマ人は鋭く對立する立場となつてゐる。

右のやうに印度人がビルマ社會に占める地位は絶對的なものであつて、印度人を無視してビルマの社會組織は成り立ち得ないとまでいはれてゐるのである。

## 三、巧みな統治と獨立運動

英國人はビルマ社會の貴族階級として君臨してゐる。それは征服者と被征服者の當然の歸結



といへるが、澎湃として起る獨立運動を巧みに回避し昭和十二年ビルマに半自治を許した鮮やかな手口は流石に老大國の狡智ぶりを示すものであつた。

永い間ビルマは全く印度の一州として英印のなすがまゝであつたが、夥しく流入する印度人移民とビルマ人の反目抗爭は次第にビルマ土着民族殊にビルマ族の民族意識を燃えさすに役立つてゐた。大正九年から十年にかけては最初のマハトマ・ガンヂーの對英非協調運動が印度に起つた時であり、國民會議派の地位は著しく向上してビルマ族の國家意識に強烈な刺戟を與へた。昭和七年に一部ビルマ人は英國の羈絆を脱する最初の手段として自國の政治的獨立を要求し俄然國家主義の運動が全國に漲りはじめた。印度人との抗爭はしば〳〵繰返され英國の高壓手段は峻烈を極めたがビルマ人は豫想以上の頑固ぶりを示して遂に英國側では所謂サイモン委員會の設置となり印度およびビルマの政情調査とまでなつた。しかしこれは印度、ビルマの代表を含まなかつたため現地でボイコットされたが結局サイモン案はロンドンの圓卓會議の中心となつて印度からビルマの分離が實現したのである。

この際英國としてはすでに印度が自國商品市場として飽和點に達しつゝあることを早くも察

知し、またビルマが印度の食糧政策に持つ强味を看破して、こゝにビルマの國家主義を緩和し、一方に側面的に印度を牽制する有利な立場からビルマの印度分離が鮮やかに行はれたのである。

印度から分離してビルマは英帝國の直轄植民地となり、兩院議會制がはじめて設けられた。これが最近までの統治法であるが、議會は上下兩院に分れ、上院は總督の任命する議員によつて構成され結局英國權益の保護機關となつてゐる。下院はビルマ土着民のみならずビルマ在住の印度人や英人によつて選擧ののち組織されるが、ビルマ人に正當な便宜を與へることはなかなか困難な仕組となつてゐる。內閣は十人の大臣より成るが、その行政權は總督と國防省の統括下にあるシャン聯邦州その他西北部の酋長治下の地域を除いてのみ有効であり、また內閣は國防費の支出について何らの發言權を持たない。換言すれば國防豫算は國防省が立案し、議會または大臣の決濟を必要としないのみならず、總督は更に議會決議の否認權すら持つてをり全くビルマ人の進出する餘地を與へず僅かに英帝國政府の意圖と合致する點においてのみ自治權を行使し得るに過ぎない。



かくビルマ人にとつて現行憲法は全く不滿足なものであるが、それは最近に至るまでつゞいてゐた。

英國の權益はかくて巧みな統治法によつて保護されてゐる。ビルマの重要な資源である石油工業は明治十九年に設立をみた英國政府と特殊の關係を持つビルマ石油會社（資本金千八百五十萬磅）の殆ど獨占するところであり、その他の鑛物資源即ち鉛、銀、亞鉛、ウォルフラム、錫なども濃厚に英勢力を背景とするビルマ商會が一手に握り、さらにチーク材の伐採から米やコンデンスミルクの販賣に至るまで英人資本のみによる有名なスチールブラザース商會や同じく英國系ボンベイビルマ商事會社など英人の大資本が勢威を擅にしてゐる。精米工業にあつても英人經營の精米所は大規模を誇り全國約六百四十のうち僅か四十五に過ぎないにも拘らず雇傭勞働者は二萬に達しビルマのそれは三百で勞働者一萬、印度人および支那人がいづれも百五十で勞働者も五千宛といふ狀態である。つまり英國資本はビルマ經濟の中樞をなす精米、鑛產、林產の主要部分を抑へてゐるとみてよいのである。在住英人の殆どすべては重要な地位を占め高官、大商人、大工業家あるひは軍人である。

昭和十二年外務次官バトラーが英國下院で報告したところによると、英國の對ビルマ投資額は六千萬乃至七千萬磅、印度人のそれは七千萬ルービー（英貨五百廿五萬磅）と稱せられ、英國の投資は壓倒的に多かつた。

## 四、擯斥される支那人

支那人は支那事變がビルマに影響するまでビルマ人からなんら反目されなかつた。かれらの殆どは雲南、福建の出身で大抵小貿易商か質屋を營んでゐる。シャン聯邦地方では季節的に流入する雲南の勞働者によつて鑛山開發が行はれてゐる。ビルマの農民はこの華僑に依存しなければ毎日の商取引が出來ないほどに親しまれてゐた。ビルマ華僑もよくビルマ社會に協調し政治的野心のないことが最も好感されてゐた。

しかし昭和十三年九月にビルマ・ルートが建設されビルマ國境に支那の飛行機工場が出現し殊に昭和十五年重慶政府がタイ、ビルマ、佛印に接する豐穣な地方に數千人の海外支那人を移住させると聲明してから漸くビルマ人の不安が增大した。事實ラングーンにおける支那救濟基



金募集はボイコットされたのである。

支那とビルマの交通は古くから行はれてゐた。しかしそれは印度、タイ、佛印などの隣接地と同樣いづれも經濟的な意義は少く殷盛にはならなかつた。ビルマ・ルートにしても軍事的意義以外に經濟的な効果は擧がつてゐなかつた。それは全く援蔣の動脈として利用されてゐたに過ぎず、もと〳〵このルートは援蔣を直接の動機として相當の危險を冒し無理をかさねて開通されたものにほかならなかつたのだ。

ビルマ・ルートはラングーンから鐵路ラシオに至り昆明につながるものとラングーンから自動車路で直接つながるものと二つあつた。すでにこのルートを通つて送られた援蔣物資の量については諸說まち〳〵であるが或る說では輸入されたトラックのみで數千臺に達すると推算され開通間もない昭和十三年十二月三噸積トラック一千臺が米國のクライスラー會社およびジェネラル・モーターズ會社から輸送され、さらにフォード會社およびクライスラー會社から同じく一千臺が送られたといはれてゐる。ラングーンにはこれらトラックの組立工場が多數建設をみた。ラシオ、昆明間は二週間の行程といはれ、百臺のトラックが毎日三噸を積んで走るとすれ

ば二千臺では月に一萬噸の輸送力を持ち、かうして今まで飛行機材、その他の軍需品輸送はかなりの數字に上ると見る向きが多かつた。

最初にラングーンに入港した援蔣英國軍需輸送船は六千噸を搭載した英國武裝船スタンホール號で、爾來米英船は毎日のやうに姿を現はしてゐたといはれ、これらの物資購入はいづれも巨額のクレディットによつて行はれてゐたことは周知の通りだ。このため重慶ではラシオ、ラングーンに西南運輸公司の支店を設置し、また中國銀行支店をラングーンに開設、ラングーン駐在重慶領事はラシオ辨事處設置とともに總領事に昇格した。かくて最近ラングーンはじめビルマ在住支那人の數は急增してゐた。

## 五、資源と共榮圏的性格

ビルマは三方を峻險な山岳に圍まれ南に海をうけてゐるが、東を南北に流れるサルウィン河流域は鑛產資源に富み、西を流れるイラワヂ河流域に油田が並び更に下流のデルタ地帶は米作地の中心をなしてゐる。上ビルマの乾燥地帶は棉作地として有名だ。



棉は昭和十四年度十七萬三千キンタルの產額であつた。昭和十二年廿七萬二千キンタルにくらべ大減產であるが、これは英當局の印度に對する食糧政策およびビルマ自體の耕作勞力の問題に支配されてゐる。東亞において支那、朝鮮を除いてはビルマのほかに棉作地はいまのところ存在しない。しかし從前七百萬キンタルの消費量を示した日本の需要には遙かにおよばず、東亞共榮圏における棉の問題はなほ殘るわけである。

米は產額において支那、印度、日本に次ぎ世界第四位を占め東南アジヤ諸國中最も發達してゐる。昭和十三年度の產額は八千百六十萬キンタルを示し年々餘剩米を食糧不足に惱む印度、セイロンに大量に輸出しビルマの米は印度を養つてゐる狀態であつた。從つて印度を共榮圏の外におく場合過剩米の解決はなか〳〵重要な問題であるとともに、印度にとつてもこれが杜絕は重大關心事でなければならない。このほか農事資源としては胡麻、落花生がある。

ビルマの石油は米の場合と同じく印度の動力となつてゐる。昭和十三年二億六千四百萬ガロンの原油を產出、世界の四%を占めたが主要な油田としてエナンヤウン、シングウ、エナシヤット、ラニワ、インドウ、ミンビュー、チンドウィン、タイエミョウなどがある。英國資本のビ

ルマ石油會社が殆ど獨占的地位を占め、このほかに英國ビルマ石油、印度ビルマ石油會社があ
りその傍系各會社があるが遙かにおよばない。設備としてはパイプラインがインドウ油田から
パンサ製油所へ二七哩の印度ビルマ石油會社のものがあるがビルマ會社のそれは素晴らしい。
即ちエナンヤット、シングウ兩油田をつなぐ四吋管、ついでシングウ、エナンヤウンをつなぐ
八吋管、さらにエナンヤウンからラングーン河畔シリアム製油所に至る延長實に二百七十五哩
に上る十吋管がある。ラングーンには英國ビルマ會社の日産二千五百バレル、ビルマ石油會社
の日産二千バレルの兩大製油所があり、製品は主として燈油であつてモーター揮發油がこれに
次ぎ航空機用のものは設備關係もあつて極めて少量しか精製されてゐない。

林産資源の主要なものはチーク材である。森林面積は七千萬エーカーに上ると推定されその
うち二千二百萬エーカーが保安林面積で政府直轄の下に伐り出してゐる。これから入る税は大
きく、直接間接これに從事する雇傭人口は四十二萬五千を算へ、農業、手工業的な織物業に次
いで第三位を占めてゐる。その大部分はこれまた印度へ輸出されてゐる。

重工業化する日本にとつて極めて重要な資源はタングステン鑛、コバルト、ニッケル、鉛で



ある。

タングステンの五千噸の生産量は支那の一萬二千噸に次ぐ世界第二位であり、コバルトは獨
占的な地位にあるアフリカを除いて重要産地として加奈陀と併立してゐる。東亞の斯業に占め
る地位は大きい。ニッケルの九百噸は加奈陀の六萬三千噸、ニューカレドニヤの八千噸にくら
べてそれほど大きい數字ではないが、日本の昭和十年以前の需要二千五百噸乃至三千噸の三分
の一を賄ふに足る。鉛の八萬三千瓩は世界的にも重要な水準にあり從前英本國の需要の一割餘
を賄つてゐた。こゝに主な鑛物の最近の産額を示せば次表の通りであつて、石油、米、木材の
三重要物資が比較的に共榮圏的性格の稀薄なのに比し、鉛、タングステンなどの持つ意義は頗
る大きいものがある。（單位噸）

| 品目 | 昭和十一年 | 昭和十二年 | 昭和十三年 |
|---|---|---|---|
| 鐵鑛 | 二六、三二六 | 二五、四三六 | 一八、〇五〇 |
| 亞鉛鑛 | 六一、三〇〇 | 五八、六〇〇 | 五四、九〇〇 |
| 銅鑛 | 四、〇〇〇 | 三、七〇〇 | 三、五〇〇 |
| 鉛鑛 | 七四、三三二（瓩） | 七八、九四八（瓩） | 八一、三八七（瓩） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 錫鑛 | 四、五四六 | 四、六三六 | 四、四二 | | |
| ニッケル鑛 | 一、二九二 | 一、二四一 | 九四四 | | |
| コバルト | 五、九一〇（CWT） | 五、四九五（CWT） | 四、〇三四（CWT） | | |
| タングステン | 四、五三二 | 四、九九八 | 五、三四三 | | |

## 六、新しい出發と經濟再編成

ビルマ經濟の現段階は要するに農業經濟の域を脱してゐない。それは勿論イギリスの植民地政策に阻害されてゐる點も見逃し得ないが、同時に根本的には鐵と石炭の缺如が有力な原因であらう。ビルマは從來この兩資源を專ら印度に仰いでゐた。從つてビルマの自給自足をめざす工業化運動はまだ可なりの困難を感ぜられるのであつて、その原料供給國としての役割は今後も續くものとみられるのである。

ビルマ經濟にとつて重要なことは貿易立國の道程がなほ續くといふことである。このことは最近のビルマの貿易を分析してみれば明らかである。ビルマの貿易はスエズ運河の開通によつて著しく進展した。當時僅かに千萬ルービーにしか達しなかつた貿易年額は、その絶頂に達せ



る昭和二年乃至四年には約十五倍の十一億ルービーを示し、最近でも大體約八億ルービー內外を算へてゐる。輸出は大體輸入の二倍で年々約三億ルービー內外の輸出超過となつてゐるが、その大部分はビルマ人の懐に入らず殆ど英、印人の懐を肥やすこととなつてゐるため土着資本の蓄積は極めて貧弱である。

その貿易內容をみると輸出の王座は米、燈油および石油、木材であつて輸出總額の九割までを占め、一方輸入は工業製品、織物、機械がそれ〴〵二五%を占め、他は單獨で總額の五分乃至六分を超えるものは皆無といふ經濟の後進性を如實に現はしてゐる。つまり原料を輸出し完成品を輸入に仰いで國民經濟を維持してゐるわけで、永年この趨勢は改善されず今日に至つてゐる有樣だ。

民族資本の蓄積とその活動はビルマ經濟の自立性にとつて缺くべからざるものの一つであるが、ビルマ人のビルマ運動が目指す自給自足經濟の確立も先づこれなくしては不可能なことは明らかである。

こゝに難問として考へられるのは主要輸出品である米、石油、チーク材の販路の閉鎖狀態と

これが解決である。これらの商品は專ら從前印度との關聯において重要な意義を見出だしてゐた。印度、ビルマの貿易は宿命的とさへみられるほど密接な關係を持つてゐる。たとへば昭和十三年のそれはビルマの總輸出額の五八%、總輸入額の五九%を占めてゐた。燈油および石油の輸出額の殆ど全部を、木材の七五%を、また米の五〇%をいままで印度に送つてゐる。そしてビルマは印度の織物商品市場として重要なものとなつてゐる。この印度、ビルマの相關性は共榮圏建設の立場から充分考慮されねばなるまい。

ビルマ政府は昭和十六年棉花と產米に國家管理を斷行し戰時統制を强化した。それは印度補强の英國的な政策であることはいふまでもないが、これが大東亞圏的に再編成をされねばならぬことはいふまでもない。重要な鑛物資源は急速に東亞圏への協力體制下に編入されねばならないだらうし、從前印度との從屬關係を多分に支配してゐた「ルービー」の處置も愼重な考慮を必要とする。また印度人と鋭く對峙する土地問題の解決は重要な政策の一環だ。同時に行政統一に懸命の努力がつゞけられねばならないが、ビルマの住民は一口にビルマ人といつても幾多の種族から成つてをり、その有力なものはビルマ族に對するシャン族であつて、現在シャン聯



邦として總督の直轄下にあるものである。

ビルマは更生の途上にある。かつて印度の國家主義に刺戟されたビルマだ。このビルマの更生は、やがて印度の獨立とその東亞共榮圏への協力を要求してやまない。

更生ビルマは大東亞共榮圏の重要な一環であることはいふまでもないが、同時にこれと深く關聯をもつてゐただけに印度に對する影響は甚大であり、これは直ちに印度を寶庫とする英國にとつて一大脅威となるものである。かくてビルマの更生は大東亞戰爭の上に極めて重大な意義を持つものといはねばならない。

と放追英米

# 大東亞經濟

出文協承認 ア70026號 5.000

昭和十七年六月廿五日印刷
昭和十七年七月一日發行

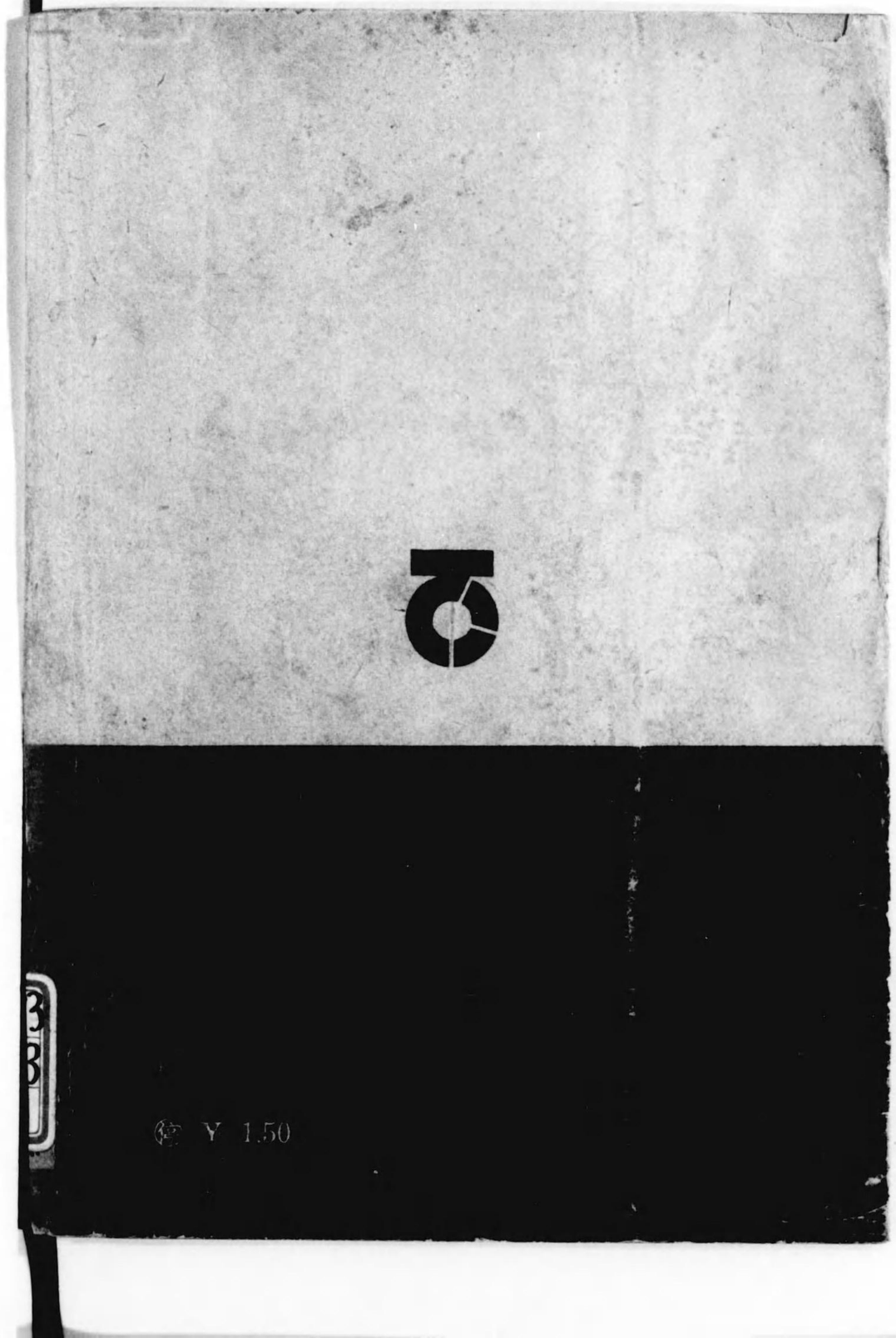
大阪毎日新聞社經濟部編【定價一圓五十錢】

編者 仲銕雄

大阪市北區堂島上二丁目二五
發行者 高井一郎

大阪市北區堂島上二丁目二五
電話 北三九一番
振替口座大阪五〇二九一番
東京市本郷區駒込千駄木町二一
電話 駒込八七八番
會員番號 一一二一二九番
發兌 新正堂

大阪市南區安堂寺橋通一ノ一
印刷所 濱田印刷所
印刷者 濱田正夫
（四、六、九二）

東京市神田區淡路町二丁目九
配給元 日本出版配給株式會社

終